

## より速い現場到着が可能に

消防や救急部隊の効率的な運用および迅速な活動を目指し、熊谷市と行田市が共同で火災や救急などの緊急情報を受信する、消防通信指令センターの運用が10月1日から始まりました。

運用開始に伴い、「熊谷市・行田市消防通信指令事務協議会」発足式が熊谷市消防本部で行われ、富岡熊谷市長や工藤市長をはじめ、両市から多くの議員や関係者が参加しました。また、共同運用する高機能消防指令システムの説明が行われ、参加者は最新の機能を有したシステムの説明に耳を傾けていました。

現在より1、2分早く出動できることから、緊急時の速やかな現場到着が可能となり、市民の安心・安全に大きく貢献することが期待されます。



## 心の通った買い物を満喫

9月18日、産業文化会館南側芝生広場で第10回行田軽トラ朝市が開催されました。

これは、新鮮な農産物を手にとってもらおうと、地産地消の一環として行われている催しです。軽トラックの荷台には、イチジクやナシ、サツマイモなど秋の味覚をはじめ、シイタケやナスなどのさまざまな農産物や花が並び、訪れた人は料理方法やお薦めの物を聞くなど、生産者との心の通った買い物を満喫していました。

## 夢を持つ大切さを実感

9月27日、東小学校で日本サッカー協会による「夢の教室」が行われました。

5年生を対象に行われたこの教室の「夢先生」を務めたのは、Jリーグ浦和レッドダイヤモンズでプレーした経験を持つ斎藤豪人さん。フラフープを使って、相手を思いやる心をはぐくむことを目的としたゲームを行ったり、夢先生の体験談をもとに、夢を持つことや努力することの大切さなどを児童と話し合ったりしました。授業の最後には、自分の夢を「夢シート」に記入し、「プロ野球選手になりたい」などそれぞれの夢を元気いっぱい発表していました。



## 愛情を持って飼い犬を育てましょう

愛情と責任を持って飼い犬を育て、適切に「しつけ」を行うことを目的に施行された行田市愛犬条例。

今年で3年目を迎える愛犬条例のさらなる普及啓発を目的に、9月30日、彩の国動物愛護推進員をはじめとする関係者がPR活動を行いました。

市内各所を歩きながら、犬の散歩をしている方に、啓発メッセージを添えた散歩用エチケット袋などを配布し、愛犬条例のPRと飼い主のマナー向上を呼び掛けていました。